

寄贈 秋山文庫 (伊勢灣台風水入本) 昭36修理製本

野村 好曲 録

桑名市立図書館

秋山文庫

2-432

1

野村平曲集

全部まとめて

一冊複製本

野村平曲集

の旗本...
きつゝ...
おめめ...
ある...
晩...
これ...
の...
を...

り...
當年...
あ...
の...
の...
の...
の...
の...
の...
の...

金に事なす。村の守り、
 我々の主が守る之由或は軍人の
 もとに過重なり。故に中絶する者あり。
 是れは御村の人々も之を知りて
 忌むるものなり。其座を自ら取り去ら
 せたり。所を我が身方殿より勅定され
 る人を選ばしむる人取りわけられ
 この節に先達たる所御就けり。此際ハ

家老の云子ある事元政に之を信ず
 味はりのものには信ずるを身より
 子つてあれは、おぼやかしき事なり
 たりと、信ずるおぼやかしき事なり
 る事、おぼやかしき事なりと、信ず
 いふもの、一方、おぼやかしき事
 あり、おぼやかしき事なりと、信ず
 あり、おぼやかしき事なりと、信ず

[illegible][illegible]

その何事か知らざるものなり
すい至中、大なる少なるを
よめりて、そのまてのよめりての法は
無きく知れず、唯、新田は城
内、のり平、勅地、今又、各々、如
如、平、なる、いふ、いふ、如、如、の

野村軒曲部卷三三終

野村村西涌きく

野村池蓋なり

池蓋を二段あり 常なる 蓋蓋の二段あり

噴き 文書のあり 文書のあり 文書のあり

のあり 文書のあり 文書のあり 文書のあり

文書のあり 文書のあり 文書のあり 文書のあり

文書のあり 文書のあり 文書のあり 文書のあり

文書のあり 文書のあり 文書のあり 文書のあり

新しき

新しきものなりとて、
一、白紙の紙を、
二、白紙の紙を、
三、白紙の紙を、

新しきものなりとて、
一、白紙の紙を、
二、白紙の紙を、
三、白紙の紙を、

新しきものなりとて、
一、白紙の紙を、
二、白紙の紙を、
三、白紙の紙を、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

情とて我打落さるる由とて
 おそけし事とておれ御たふ別時
 の金子三あぬはとてさう上ハ
 名の利とてまは花とてさう
 子とての奸曲なり
 悔の成るまじくさうとて
 漢やとてさうとて邦國
 自天の邦とて
 其おととてさうとて

野長軒世深堂之印

錦
野
曲
陽

子

常寂如を丁上江事あれども家門の
 面一のん似せよとれるあつて
 此く業名所材の寄信僧を延致
 そのう人等一の就事何げ并に
 孝ふむとつても。而して力
 一或家物語をそひぬけ事を
 しくとて。所け理村をな

[illegible]

小の村敷百三ヶ村に
 何れもなほに屋敷の
 杉木もたてゝてゝ
 一ち物めりてゝ
 事ぬれりてゝ
 何れもなほに屋敷の
 杉木もたてゝてゝ
 一ち物めりてゝ
 事ぬれりてゝ

[illegible][illegible]

あつたこのへきなをふりあつた
ふその時お村にあらぬのころ
きやうきやういふおはきやう
かのへきなをふりあつた
お村にあらぬおはきやう
あつたこのへきなをふりあつた
お村にあらぬおはきやう
あつたこのへきなをふりあつた
お村にあらぬおはきやう

ひく村にあらぬおはきやう
あつたこのへきなをふりあつた
お村にあらぬおはきやう
あつたこのへきなをふりあつた
お村にあらぬおはきやう
あつたこのへきなをふりあつた
お村にあらぬおはきやう
あつたこのへきなをふりあつた
お村にあらぬおはきやう
あつたこのへきなをふりあつた
お村にあらぬおはきやう

昨日と昨日の夜に於て
中へ一頁を寄つた相成るは其の意を
知れども其の意を知らずなり
中へ一頁を寄つた相成るは其の意を
知れども其の意を知らずなり

野村胡堂存正

3
野史



八

野村軒由陽卷之八

相見酒自川所流の支

天地の吾化人知をさくく半ぶら
けり小室の年中留士のたまふて
砂流のまわし一雲ふあふりてを
のちおる山田ふをる物一く我子酒
白川ふさくくさく 花助書つくた荒ふ
あり又世水乃田畑のふりてふ

得がより四人新しき肩振を中宿
此の人をこそ新しきかんとをさる故
あるハたゞの一人動全郎をたゞの意匠
この人をもて又此れを破り
毎日の用かゝる歩をたゞの海
にかゝるきくぶ人の増減を
つゝあゝ知あゝ一たりこのあつり
高き酒井の目度にも御くに勢を
の

得たをさるゝり好く舞をたゞの
一人中一控を酒井を送り役所が
まてりゆふ春暇をさるゝ舞をたゞの
酒井の目ハあゝ舞人の今も舞を休
息をたゞの舞をたゞの舞をたゞの
のまけなりとわいあてよりいひあ
けり高き酒井あゝ舞人のくけ舞を
舞をたゞの舞のくけ舞をたゞの

美わのりゝるはくふやわにふりて
はうてさゝにふらの金子を費つてお
のゝ所ふ所場を上げて有いのよりまゝ
浅ふまゝ本拂のりゝるはくふやわに
金子をとりてふりての宛あけられ
てゝ何事かふりてふりてふりて
ゝおはのりゝるはくふやわに
石代なるゝその所なるを賜ふる

川筋をふりてふりてふりて
ちりてふりてふりてふりて
のりゝるはくふやわに
ゝ入てゝ何事かふりてふりて
おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
并月用ゝるゝのりゝるはくふやわに
えゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

に驚き一うつゝこのはろい誰へのおろし
とあるはあけは又智方えと云はるも
ひあゝ寧ろあ氏の思ふよりあふ
天下にまゐく乃せし徳なり天運耶のめ
かみけいしる徳をんやあゝんやあゝん
さゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝ
中もぬの物なりいさゝさゝさゝさゝさゝ
ちゝちゝ

町村徳大の信傳勢信のしり

町村 京中徳大町村あゝさゝさゝ
當年城中もぬ物なり町村徳大のしり
徳大さゝんーあゝさゝさゝさゝさゝ
さゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝ
さゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝ
あゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝ
あゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝさゝ

此の地は、この山に依りて、
宜しき所なり。其の地、
何れも、其の地、
あやつけられ、その地、
一、其の地、
八、其の地、
此外、其の地、

斗雲、此の地の百姓、
其の地の、
其の地、
其の地、
其の地、
其の地、
其の地、
其の地、

上御小太夫の御座り候へり候ふの事
一朱賣賣の関店を多お割り候へるを
より其の事方あるなり候り所人お弁
り候へり候ふ所は控金せうけ候へり
私歌の付く事なり
一今頃身人美良美子お勤は所は様
に候へり候ふ一は答なり候へり候ふ
と一お勤たうと人の所はより候ふ

一前方の御座り候ふ一は候へり候ふ
ちうと此調子を候へり候ふ一は果し
相向の御座り候ふを候へり候ふ一は
候へり候ふ

一お勤様は美良美子お勤の所は様
に候へり候ふを候へり候ふ一は
候へり候ふを候へり候ふ一は
候へり候ふを候へり候ふ一は

名臣或部

五外語上

鎮中亭内は、流所、朝のこゝの静寂
 正しくおぼえ、ハ、大抵、その如く、おぼえ
 此の頃の、怪重、いさゝか、おぼえ、おぼえ、おぼえ
 何の、おぼえ、おぼえ、おぼえ、おぼえ、おぼえ、おぼえ

去後小休大なる事なり下命御前
 中阿けこれらびあや一あけあけ
 ものを織りおもひ威障ふかりき
 ありをばく執中なる休大なるを
 方事事起へば金子我々笑つた
 つまやア一あいん衆の新しい城
 あやうき刀用も有り玉垂延延
 と後人のんきみもあけけけけ

明室あのかゝる我々を代りては
ふん限るはく一と云ふなり
と云ふはたゞしき事何れもあらず
そゝに限るはく教とせむは
是より助成を蒙るはく
即ち其の面く見えて
國果の事ありき
なり

明室あのかゝる我々を代りては

野村好曲福

九

聖村好田流書九

聖村好田流の書

流斗八眼前此利満よりいづとも流子笑
道北は四封致わらむるありりもいづとも
凡夫さうんい神さうん流子笑人あ
とさうんあふり之威の致あふんを
さうんあふり天幕よりいづとも流子笑

流斗八眼前此利満よりいづとも流子笑

よ、
北条利隆の、
り、
武智、
豊村、
三男、
我、
もい、

元、
只、

豊村、

故、
と、
四、
終、
人、

くきりし屋敷よりあられ目付
人達士の此の移人なりきり
されり又移りし屋敷内移り
や一子名北日八集方一在れ
此市移居る一移り助助
り信助助助の移人なり
上り市用ゆゆありお止り
るにこの移人なり

や一子名の公も移りし何
移りし屋敷の移人なり
移りし屋敷の移人なり
移りし屋敷の移人なり
移りし屋敷の移人なり
移りし屋敷の移人なり
移りし屋敷の移人なり
移りし屋敷の移人なり

さしつけに唐土の金貨は六枚に動
助との南庄のおりいゝさ。――と
るまへなり。乃ちもとよりあはき御子
越中殿――すなはちなりと念をいひ助
お封じつけさるべくけし御殿に
おる。と内親王の御趣さるべく御前
そむきハ吉村をたふくおしるはるる
或は後継半蔵の四人の外はを指す

かまき古粧乃後口お方の金貨あて
のさつ――と内親王の御趣さるべく御
おいゝ――と金庫に掛りおにらわハ
御用の友をいへるのさるべく御
おはちせし金庫内をさつとこれ御面
のさつハ御文庫におれり。とつて金
と此のさるべくおるさるべく――

は吉村をたふくおしるはるる

の心は、海に、遠く、人、海、と、云ふは、
三才人、在、月、目、之、如、や、ふ、と、め、
古、も、後、子、系、新、所、摩、何、その、心、
明、多、厚、有、あり、尚、限、お、ま、我、中、
に、能、出、を、い、人、程、故、お、と、何、の、
知、く、は、る、や、ふ、お、才、の、厚、と、是、

野村、重、の、法、人、を、捕、り、て、
四、日、百、河、川、に、流、れ、人、海、に、出、て、

其、處、一、と、一、天下、の、巡、見、お、ま、を、お、
つ、て、所、居、り、く、と、お、り、を、渡、さ、る、
最、大、れ、何、と、の、船、を、り、又、兵、助、助、
別、く、と、何、用、これ、何、の、衆、お、は、は、何、り、
何、人、お、は、は、何、の、所、何、と、お、り、お、の、何、者、
何、者、の、何、村、何、何、の、何、毎、何、の、何、城、
と、何、者、何、の、何、り、何、の、何、り、何、り、

何、人、の、何、れ、何、村、何、何、の、何、

人々の中より一とくくみ置を打寄
たむらふ人々世或る由法人形けられ
る龍獄なり此の書りふ新龍獄出
来獄より次第居や月丸右雨柳に頼
動居場と女界と時々部追込ふ所成
せん此一日のうちに半新乃侍やふ
さ家と世成るよりその強知ふと

今日ふかぎり 宝重酒之滴のみ
後留ふゆゑに仕ぬいぬ瀧のそと
市をきり 庚戌大星の数中身殿人
のおよふ屋より何ふけさる所中
上やまハ務たふそまぬ法の初獄さ
めえ地の人因窮ふゆふ強に数ぬ
人強らけり明一仕置ふゆふけらる

西の強らる所中

今此身... 合帳面... 一多被
結る... 又存... 中...
はれ... 村... 倭寇... 金...
付... 身... 百姓... 國... 及... 終...
訓... 百姓... 富田村... 齋... 野
村... 権... 諸所... 人... 西川... 島... 禁
獄... 中... 新... 地... 所... 城...
阪... 百... 姓... 不... 守... 留... 破... 却... 住... 居...

と... 百... 姓... 存... 不... 守... 留... 破... 却... 住... 居...
村... ぬ... 惡... 逆... の... 所... 不... 守... 留... 破... 却... 住... 居...
時... 節... 出... 來... 取... と... 水... の... 表... の... 目... 不... 守... 留... 破... 却... 住... 居...
々... 々... 如... と... あり... 不... 守... 留... 破... 却... 住... 居...
衆... 名... 領... 不... 守... 留... 破... 却... 住... 居...
と... 百... 姓... 不... 守... 留... 破... 却... 住... 居...
と... ち... ぬ... 存... 不... 守... 留... 破... 却... 住... 居...

今此身... 合帳面... 一多被

野村奸曲録の巻之十

野村録の巻之十

今世の世にありて居るもの人々を
知る所り 東京より 野村の巻之十
あり ちの世にありて居るもの人々を
是の世にありて居るもの人々を
百八十五所家せぬとありて居るもの人々を

旅人五人きりしとありたりとて教ふ所
かゝる旅人衆内此少御也義徳寺
の寺官とも教ふ所とありとて記す
名好まきなるふやゝに終たふは終る
の義これ阿りし官衆名一りなりと
しきこれ阿りし官衆名の義ふつは終
中衆衆なるれやありとて時小押て

方小とてありたりとて終るふめや
ふの時目害切極するせきとて終る
はとて終る終るなる衆名一りあり
なりとて終るふめや終るの決をきし
ふまありといは上かもの一り終る衆
のふ終り所は衆に終るなりと終る
終る衆なりと終るなりと終るなり

本邦國貨の保護に長ずる事
斗一軒つけを名碩一果るるを来りて
是中一中達せしむるハ其に沸きあけ
中屋を此より多き所方多し人々
又多きもの日数なれ何れも付
味味酸をけりる中より此後之を
世に刑罰も當る事なりたれども

常り五合中屋を人々より多く
きりて一四日金と云はれ新入
多し中つけ中屋を多くし来りて
修元金に込るるものありけに
方部巡見りきと解りしもの
見一長おもしろいをれを
きりて中つけ中屋も多し

中つけ中屋も多し

歸村軒山泉記

と来りや

理村終ちるに時年

拙村終ちるに時年
向より細く終ちるに時年
一 終ちるに時年
たの屋張を終ちるに時年
金さるに時年

山田おつうに
みあつうに
つうに
く厚く
ドきつうに
振めつうに
や海

に戸あかえに木葉のうらあはし
おたふる人をあつと夢田や上屋
とつるうりみん植身人改り謗云
まよつてうらふおとさうとあやむ
つよくは思ひて我を賦するま
れはうつぬたう
おたふるうらむけりうとげおたふ

面名かきつちるはと所ぬき柳け
をやりりそのうけたのなり
一年春新曲方名の友とあつたすけ
られぬつりいあやまもとり
金これうらむまはとのはたつね
松の美なりは形はに友操とあつ
おやあやまはうらむかきいん

をわく切腹のさへは元の世
時流のちまはつるはるは

一 邦より上屋を平と云ふは年
を羽様の布うげをふつて業耀
の世樂はり何うくもはるまは
ありありと海氣はさふふと
かりと打笑いゝかゝるも

のころ見へるいふは母稀はのち
要人の方難と云ふ

理村終たの兼二黨の物死罪の受
理村終たの罪をなすり 刑戮やるは
のとき久徳武部知いゝそまふは
身人妻よりとめさるゝ方へは
育けりといふは

の心切ぢやうとておめいさもなうこれ
を無たふ目をつらうとてを免れりとも
うち笑ひやうとやるもなぬ是あり何人
りまゝの多れを忍ぶまゝまゝ彼が海
りて我ん何きまゝに何様もいふを
汝をなすといふはなすといふは
言ふといふはなすといふはなす

何うためもあり何きまゝに何様もいふを
あり我んが何きまゝに何様もいふを
はなすといふはなすといふはなす
す。されどもいふはなすといふはなす
何くとも三人もいふはなすといふはなす
汝をなすといふはなすといふはなす
はなすといふはなすといふはなす
はなすといふはなすといふはなす

年々人日院より死のといふ語を
聞くなり年々人日院のいふ言ふ
ありハ洲が食は切るハ床井切あり
市車多きものといふより南水河
くんやと河は河をみふ山ふま
と家財子ニ勇助助たふまといふ
ハ一実助子おひてたてといふと

さういふといふ河のりより年々切替
る河やハ首首より大いきに切替をこ
の刀ハ父身人さ料より一実つん果のめ
くハなすもの取りそれより台助助
くんハ小首より一実をいふと
またハ久松をいふと
白きなり首より一実をいふと

此の文は、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

いふふききりこの人大量の愛を
もつた人か自由自在な心で
ふたつは心と心をわけて別
れをとりあつた人か
情をせしめたり
動をせしめたり

此項資料已在本處
 保存之現狀下已與該處
 之現狀一致故該處之
 現狀已與該處之現狀
 一致故該處之現狀已
 與該處之現狀一致故

Handwritten text, likely a signature or name, oriented vertically.

嘉永五歲五月
十一日
晴
七月
氏

諸君之見也

諸君之見也

許村坪田除き

町中蘇浅兼旅人町中演

町中蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演
のり形り蘇浅兼旅人町中演

町中蘇浅兼旅人町中演

後、
...

様し、ハ、
...

了、
...

...

世村のいふはるゝ同様にても
たゞあつたの二番はつたは男勤助
を助はるゝ。とあるは、法や人と
男勤助を助はるゝ。とあるは、男勤助の助はるゝ
法は男勤助の助はるゝ。

世村のいふはるゝ同様にても
たゞあつたの二番はつたは男勤助
を助はるゝ。とあるは、法や人と
男勤助を助はるゝ。とあるは、男勤助の助はるゝ
法は男勤助の助はるゝ。

世村のいふはるゝ同様にても
たゞあつたの二番はつたは男勤助
を助はるゝ。とあるは、法や人と
男勤助を助はるゝ。とあるは、男勤助の助はるゝ
法は男勤助の助はるゝ。

世村のいふはるゝ同様にても
たゞあつたの二番はつたは男勤助
を助はるゝ。とあるは、法や人と
男勤助を助はるゝ。とあるは、男勤助の助はるゝ
法は男勤助の助はるゝ。

何れも 今迄の事よの事
しるす事にはやゝあやうく思ふ事あるに
てなつて人の作らぬ事なかり
かほる法にさうさうく名ふ事な
りきりけり 然るに海軍と陸軍の
不平等の事とやういふ一應をさ
うしるす事なかりけりその事
は 陸軍と海軍の平等を
しるす事なかり

しるす事なかり 然るに海軍と陸軍の
不平等の事とやういふ一應をさ
うしるす事なかりけりその事
は 陸軍と海軍の平等を
しるす事なかり

しるす事なかり 然るに海軍と陸軍の
不平等の事とやういふ一應をさ
うしるす事なかりけりその事
は 陸軍と海軍の平等を
しるす事なかり

百三十一
 此の巻は、
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

五柳先生傳
 五柳先生者晉
 之隱者也名
 潛字元亮世
 居江州柴桑
 宅邊有五柳
 樹因號五柳
 先生性嗜酒
 好讀書自號
 五柳先生

何れも...
階級を定めぬや一階級のより下階級
を自由にけしむ。像るををあらひし
よ。利をきくもて足味のものよりなる
前、心度水の味やの市とにきく
よりなるやある。けしむものよりなる
をたきく。心度水の味やの市とにきく
の市とにきく。心度水の味やの市とにきく

さておき...
階級のよりなる。心度水の味やの市とにきく
をたきく。心度水の味やの市とにきく
よりなる。心度水の味やの市とにきく
をたきく。心度水の味やの市とにきく
よりなる。心度水の味やの市とにきく
をたきく。心度水の味やの市とにきく
よりなる。心度水の味やの市とにきく
をたきく。心度水の味やの市とにきく

心度水の味やの市とにきく
をたきく。心度水の味やの市とにきく
よりなる。心度水の味やの市とにきく
をたきく。心度水の味やの市とにきく
よりなる。心度水の味やの市とにきく
をたきく。心度水の味やの市とにきく
よりなる。心度水の味やの市とにきく
をたきく。心度水の味やの市とにきく

さうして、新に、海軍、其の、

海軍を、人、ふれ、を、収、り、減、り、を、を、り、や、

と、又、同、一、事、相、事、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

海軍、り、や、り、も、一、事、を、れ、や、り、

の事柄を果してはめいゝの留め札を
米商いといふを具し——この可成り
人々がこれと米名の米を以て
しめを結たつて帰る。返りて
いふ事柄が中人中定いつてて
ふり高ひきるめいゝの関はたのみ
素直——あるがめいゝの米を
これぬ金あつてのぬきとす

白代のちまつてあるお高き
高ひきるお高き——お高きを
場を金めいゝの米を以て
高ひきるの町を——お高き
お高きこれあるといふ米の町を
お高きお高きお高きお高き
お高きお高きお高きお高き



